

令和6年度

事業計画及び予算書

公益財団法人いばらき文化振興財団

目 次

I 事業計画	1 ~ 13
II 収支予算	14 ~ 18

I 事業計画

基本方針	1
1 公益目的事業1 [公1] (文化振興事業)	2 ~ 4
2 公益目的事業2 [公2] (水族館事業)	4 ~ 12
3 収益事業 (水族館売店事業)	12 ~ 13
4 法人運営	13

I 事業計画

基本方針

当財団は、「各種の文化振興事業を行うことにより個性豊かな県民文化の振興を図りもって国際性豊かな文化の県づくりに寄与する」ことを目的として、次の事業を実施する。

なお、公益財団法人として公益目的事業を引き続き遂行するとともに、収支の均衡した健全で責任ある経営に努めるものとする。

令和6年度は、県民の自主的・個性的な文化活動の支援をはじめ、参加体験を通じた文化芸術の担い手育成や新進演奏家とともに創る文化プログラムの提供等により、コロナ収束後の県内の文化活動の状況を踏まえた事業展開で本県の文化振興を図る。

また、「NEW AQUAWORLD」として作り出した様々な新ブランドの継承と、常に新しいことに挑戦し、今までにない「世海」を創出する海の総合ミュージアムである「アクアワールド茨城県大洗水族館」の運営を行い、県民から愛され、親しまれる施設運営と事業展開に努める。

さらに、新型コロナウイルス感染症対応については、ポストコロナ時代への移行とともに、利用者の安全が確保できるよう防止対策を継続しながら、効率効果的な事業手法の導入や事業の拡大及び強化のための人員増による事業基盤の強化で、大洗水族館の機能が十分発揮できるよう管理運営に当たるものとする。

1 文化振興事業

文化振興推進事業

コロナ禍における文化活動団体の創作活動制限等により、県民の参加・鑑賞する機会が低下して、文化芸術の魅力発信や担い手の確保・継承など様々な課題が生じ、財団では随時対応策を講じ解決に取り組んできた。

今後は、文化活動団体等の創作活動を推進するとともに、ポストコロナという視点で、県民の参加・鑑賞を通じた文化振興の仕組みづくりや事業展開を積極的に行い、本県における文化活動の活性化と文化振興の拡大を目指す。

2 水族館事業

茨城デスティネーションキャンペーンを機に上昇した当館認知度を維持しつつ、今まで以上に新たな挑戦を図る水族館として運営する。

また、サメの飼育数日本一を誇り、日本初シロワニの繁殖を成し遂げたナンバー1かつオンリー1の水族館として確立していく。

1 公益目的事業 1（文化振興事業）

（1）文化振興推進事業

文化活動団体等の創作活動支援をはじめ県内市町村等が目指す文化振興の実現に向けて、財団の文化芸術・舞台公演に関するノウハウの提供や未来を見据えた担い手育成など、県内全域を視野に入れた事業展開で本県の文化振興の発展を推進する。

ア 文化活動事業費助成事業

県内各地において、創意・工夫を凝らした積極的な取り組みを行っている文化活動団体等に活動成果発表に係る事業費の一部を支援する。

なお、団体等の成果発表を通して文化芸術の魅力を広く発信するために、指導・助言を積極的に行いながら文化活動を支える人材育成や創造性の向上を推進し、県民の豊かな感性と創造性を高める基盤づくりに努める。

<助成計画>

項目	R6 計画	R5 計画
助成交付件数（件）	43	95
助成予定額（千円）	11,275	22,377

●文化活動団体等に対する集客支援

文化活動団体等が実施する催事等の情報をオウンドメディアの活用による発信強化で、コロナ収束後の集客力の強化の一助を担う。

●助成制度申請者への利便性向上

助成制度申請者に対して申請・報告書等の各種書類の受付を 24 時間対応可能なオンライン機能の継続導入で、利便性向上を図る。

イ 文化芸術創造発信事業

各事業の中心となる新進演奏家を発掘から技術向上、創作活動支援等の事業スキームで人材育成を図るとともに、協働による質の高い創造性豊かな創作作品を提供し、広く県民に文化芸術に興味関心を促し文化振興に努める。

また、新進演奏家の魅力やセールスポイント等の情報を Web コンテンツにより広く発信し、各企業・市町村等からの外部派遣依頼を促進する。

●新進演奏家発掘プログラム

本県出身・在住等の有望な新進演奏家の発掘と活躍する場を推進する事業
・第 50 回茨城県新人演奏会

●新進演奏家活躍支援プログラム

創作作品の発表の場の提供と作品鑑賞を通じた文化芸術に興味関心を促す事業
・茨城県新人演奏会 50 回記念演奏会

●新進演奏家参加創造プログラム

著名な演奏家との共演等、貴重な体験による創作意欲の向上と作品鑑賞を通じた文化芸術に興味関心を促す事業

- ・みんなで楽しむオーケストラ演奏会

●舞台芸術鑑賞プログラム

質の高い舞台公演の提供と作品鑑賞を通じた文化芸術に興味関心を促す事業

- ・21世紀管弦楽団演奏会

<事業計画>

実施日	事業名	会場	入場者数
8月11日(日) 10月12日(土) 12月21日(日) 1月12日(日) 2月23日(日)	茨城県新人演奏会 50 回記念演奏会 (5 回)	県民文化センター 小ホール	750 人
9月29日(日)	第50回茨城県新人演奏会 ※公開オーディション6月16日(日)	県民文化センター 大ホール	500 人
10月5日(土)	21世紀管弦楽団演奏会 「情熱のコンツェルト」	県民文化センター 大ホール	1,000 人
2月2日(日)	みんなで楽しむオーケストラ演奏会 「OPERA ガラコンサート」	ひたちなか市文化会館 大ホール	1,050 人
4 事業 (R5 計画 : 8 事業)			3,300 人

<新進演奏家 出演・派遣等計画>

区分	主催公演	出前講座	市町村等派遣	計
R6 計画	120 人	125 人	25 人	270 人
R5 計画	60 人	125 人	15 人	200 人

ウ 文化振興マネジメント事業

県内市町村等が目指す文化振興の実現に向け、財団が培ってきた文化芸術に関するノウハウを提供し、専門性を有する人材不足の一助を担うとともに、協働による企画制作や運営等の事業展開で確実な目的達成と人材育成に努め、本県の文化振興の発展を推進する。

また、事業スキームや新進演奏家等を紹介する情報を Web コンテンツにより広く発信し、当事業の認知度を向上させ県内各地での文化活動の活性化を目指す。

<事業計画>

実施日	事業名	会場	入場者数
通年	本県ゆかりのアーティスト による県内巡回公演 「公的団体受託事業」(7 回)	県内 7 会場 高萩市・水戸市・牛久市・古河市 他	1,750 人

エ アウトリーチ事業（文化芸術体験出前講座）

文化活動団体等の高齢化や実演者の減少が進む中、担い手の確保と文化芸術の継承を重要課題と捉え、新進演奏家や文化活動団体等を活用した様々な文化芸術に接する講座を提供し、課題解決につなげる。

また、当講座を通じた「文化芸術の力」で、自己表現や創造力を育み子どもたちの成長や自己実現に貢献する。

<講座内容>

区 分		内 容
音 楽	管楽器、弦楽器、打楽器、声楽、邦楽器 他	音楽鑑賞、楽器演奏体験等
美 術	絵画、書道、陶芸、リボン・アートボール	技法・技術指導、作品制作等
伝統文化	茶道、華道	お点前の見学、体験等
能 楽	—	能楽鑑賞、体験（謡・舞・太鼓）等
食文化	—	郷土料理の講和、調理体験等

<講座計画数>

区 分	学校枠	一般枠	計
R6 計画	134 講座	3 講座	137 講座
R5 計画	111 講座	5 講座	116 講座

オ 助成金等を活用した持続可能な事業運営

公的助成金（文化庁、地域創造、日本芸術文化振興会 他）や企業協賛金等を活用した事業経費の負担を抑えた適切な入場料金設定で、多くの県民が鑑賞できる機会を提供するとともに、収支均衡を図り持続可能な事業運営に努める。

2 公益目的事業 2（水族館事業）

（1）水族館の運営

前年度 10 月～12 月に行われた「茨城デスティネーションキャンペーン」では、当館の情報も様々なメディアから露出し、当館の認知度は大きく向上したと考えるが、令和 6 年度も現在の“新世海”ブランドを継続し様々な新たな取り組みを行うことでブランドの定着を図っていく。

令和 5 年度夏に大きな成果があった、異業種コラボをさらに魅力的に進化させた第二弾を実施するとともに、当館のキラーコンテンツである“サメ”ブランドを更に強化する施策をおこなうほか、季節に合わせた一つ一つの催事においても、これまでの 4 年間で培った“新世海”ブランドを意識した新たな取り組みを行い、楽しみながら学べる社会教育施設として、これまで以上に幅広い顧客の獲得を図っていく。

また、一つ一つの施策において、クオリティーにこだわり質の高い展示・催事を行うことで、魅力的な施設づくりを一層強化し、地元で愛され県民が誇れる水族館を目指していく。

項目	R 6 計画(A)	R 5 計画(B)	増減(A)-(B)
一般	736,235 人	777,986 人	△41,751 人
団体等	231,692 人	178,443 人	53,249 人
ナイト	12,700 人	14,750 人	△2,050 人
年間パスポート	28,017 人	28,821 人	△804 人
有料入場者計	1,008,644 人	1,000,000 人	8,644 人
年間パスポート 2 回目以降	101,008 人	89,414 人	11,594 人
有料入場者計②	1,109,652 人	1,089,414 人	20,238 人
無料入場者	107,120 人	108,837 人	△1,717 人
総入場者数	1,216,772 人	1,198,251 人	18,521 人

(2) 飼育展示事業

基本テーマ「茨城の海と自然・世界の海と地球環境」に基づき展示の充実に努めるとともに、飼育生物や県内外に棲息する水生生物について調査・研究を行い、それらを通して自然環境保護の啓発活動を行うことで、環境保全の基幹施設としての一翼を担う。

ア 魚類展示

お客さま、生きもの、スタッフの安全・安心を第一に考え、水族館の4つの目的(調査研究、教育、種の保存、レクリエーション)に沿って「既存展示の魅力度アップ」、「新規生物の導入」、「サメの展示の充実」を実施する。

また、飼育展示技術の開発、継承・人材育成を図りながら、「満足度日本一」の展示を目指す。

① IWASHI LIFE のブランド強化

通常開催だけではなく、季節やイベントに合わせてプログラム内容を更新し、お客さまに満足して頂く演出を行い、更なるブランド強化を図る。

② サメの繁殖研究・展示

SDGs に関連する取り組みと連動させ、自然に負荷をかけない展示を目指し、特にサメ類の繁殖研究に力を入れ、自家繁殖したサメ類の展示を「さめっこるーむ」コーナー等を活用し積極的に行う。

③ SDG 関連事業の開発・実施・展示

環境教育をテーマとした自然体験塾の実施と新規プログラムの検討、展示生物の繁殖に努め可能な限り自然界の生物に負担のかけない展示の実施、アカウミガメの産卵やウミガメ類のストランディング調査を通じて自然保護活動を実施し展示などで啓発していく。

④ フィールドでの生物の採集

定期的に県内乗船収集等を行い、収集した生物を用いて季節感のある展示を目指すとともに、マンボウ・サメの補充と茨城県産魚類の調査研究に役立てる。

昨年に引き続き、県内サメ類延縄漁調査や茨城県水産試験場協力のもと、調査に乗船し、生物収集などを強化し展示に結び付ける。

⑤ 深海生物・サメなどの新規展示・導入・補充

日本最多のサメの展示種数を維持するため情報収集に努め、収集・購入等を積極的に行っていくとともに、深海生物収集拠点の検討の一環として、高知県室戸市での乗船収集調査を継続して実施する。

⑥ 展示手法の見直し・改修による魅力度アップ

生物の魅力をより伝えられる展示手法を改善するとともに、経年劣化した水槽の補修・リフレッシュを図り、展示効果を高める。また、館内の魚名板や展示解説のデジタルサイネージ化を進め、常設展示の魅力度向上を目指す。

イ 海獣展示

リニューアル後に開始した各種イベントを継続しつつ、季節やお客様のニーズに合ったイベントへと随時内容を更新する。リピーター確保の観点より、動物の解説や解説板の内容も随時更新し、何度来ても新鮮な驚きのある展示・解説を目指す。

① 多彩なイベントの開催

動物を身近に感じられる屋外エリアでの「ペンギンのおさんぽタイム」「カリフォルニアアシカのおさんぽタイム」については引き続き開催し、それに付随する有料イベントについては、令和5年度に実施した内容以外のイベントを開催できるよう動物の訓練・馴致を進める。6階エリアでの「もぐもぐタイム」については、随時内容の更新を行い、常に「動物の今現在の情報」を提供できるよう努める。

② 飼育動物の健康管理の強化

獣医2名と飼育スタッフが緊密に連携をとることにより、動物の健康維持・管理体制を強化する。また、診療技術向上のため、勉強会等には積極的に参加すると共に、診断に必要な機器類についても充実を図る。全動物種に関してハズバンドリートレーニングを強化し、予防的処置への対応力向上を図る。

③ 鯨類の繁殖への取り組み

令和5年度に新江ノ島水族館で行った人工授精の結果、新江ノ島水族館のバンドウイルカのメス1頭の妊娠に成功した。今後も他園館と協力して人工授精に積極的に取り組むために、採精・精液の希釈・凍結保存までの一連の技術の確立を目指す。令和6年5月頃に出産予定のバンドウイルカ（モモ）については、出産環境を整え、当館初の仔獣安定飼育を目指す。

④ 可変性あるオーシャンライブの運営

出産のためショー出演が出来なくなる個体が出るため、安定したショー運営のためには、若い個体の種目の増加・安定が欠かせない。これらの個体の状況を常に把握しつつ、トレーニングを進め、常時ショー出演出来る状態を保持する。また、夏季

時期には当館初の取り組みとしてカリフォルニアアシカとトレーナーが共に水中に入りつつトリックを行う「アシカの水中種目」のお披露目を予定している。さらに、昨今の時流に合わせ、小中学校の遠足が集中する秋季には学習的要素を取り入れた「レクチャー型ライブ」を計画している。

⑤ 鰭脚類のショー・イベント出演個体増とプログラムの充実

カリフォルニアアシカについては、令和5年度に進めた若齢個体のトレーニング強化により、イベント・ショーへの出演個体が増加した。この状態を保持できるよう努めるほか、上記の水中種目についても、令和6年度中には全個体が可能となる状態を目指す。

ミナミアメリカオットセイについては、令和5年度の出産等の影響でトレーニングが遅れているため、リニューアル部分の魅力を最大限生かせるよう、解説中に実施する演技種目の拡充を目指すとともに、展示プール外でのイベントに向けてトレーニングを進める。

⑥ 鰭脚類、鳥類、カワウソの自然繁殖推進

カリフォルニアアシカ、フンボルトペンギン、エトピリカについては、個体数の安定が図れているため、自然繁殖を継続する。また、遺伝的に健全な個体群管理のため、フンボルトペンギン・エトピリカについては他園館との個体交換などによる血統更新を目指す。

カナダカワウソについては、季節に合わせた気温のコントロールや繁殖行動の観察を強化し、繁殖時期は雌1個体と雄の同居飼育を行うことで自然繁殖の促進を図る。

ゴマファザラシについては、若齢個体の同居飼育を継続しつつ、新規若齢雌個体の導入を行い、さらなる自然繁殖の促進を図る。

⑦ ペンギン・カワウソのふれあいプログラムに向けた訓練強化

フンボルトペンギンについては、写真撮影やタッチといったふれあいプログラムに参加できる馴致個体を確保するため、計画的な人工育雛を継続する。

また、カナダカワウソについては、6年度中にふれあいプログラムへの参加を達成するべく、体への接触や人に対する脱感作を行うほか、写真撮影に向けた器具への脱感作も併せて行う。

⑧ 柔軟なショー運営とオーシャンシアター案内の内製化

ショー運営については、イベント等に対応して柔軟に内容や開催回数を変化させるほか、シアター内の案内業務を海獣展示課スタッフで内製化することにより、CS向上を図る。

ウ 自然博物館水系展示水槽管理受託事業

ミュージアムパーク茨城県自然博物館から受託した水系展示水槽の適切な管理を行うと共に、展示用生物の収集をはじめ、各種展示解説や企画展での水槽展示、維持管理を行う。

(3) 教育普及事業

学べる水族館を目指し、コロナ禍で中止、縮小していた館内での解説・レクチャー、館外での活動を再開することを通して、来館者の満足度アップに貢献し、リピーターの確保に努める。

なお、学校を対象とした事業においては、コロナ禍で普及した Web 会議を利用した来館事前授業や授業に使える標本の貸し出しなどを新規に実施することで、学校関係の誘客・利用促進を図る。

ア 発見体験学習の実施

事前募集型の「自然体験塾」として、14 講座 24 回の開催を計画する。

昨年度に引き続きホームページ上での募集を主とするが、SNS、LINE 等も利用し、情報の周知及び利用度アップに努める。

イ レクチャー及び展示解説の実施

例年好評で参加率も高かった「水族館バックヤードツアー」を継続実施し、参加者の満足度アップと収益の確保に貢献するとともに、季節イベント等と連動し学習的要素を含んだ付帯事業を取り入れ実施する。

ウ 機関紙「Sea 遊」の発行

館内案内・情報発信・教育普及を目的とし、年 2 回（6 月、12 月）発行を予定し県内小中学校ほか、図書館などの各機関、栃木県内小中学校への配布を行う。

エ シャークダイズルームの運用管理

サメをテーマとした「シャークダイズルーム」を教育普及プログラムや催事等で最大限に活用し、当館の魅力向上促進に努める。また、飼育研究で蓄積した資料を活用した展示の変更も検討する。

オ 自然教室等への講師派遣

学校教育機関などの依頼を受け、水生生物や環境等をテーマとした講師依頼に随時対応するとともに、Web 会議システム等を利用したりリモートでの講師派遣にも積極的に対応し、学校の利用促進に繋げる。

カ 実習生・研修会等の受入れ

主に中・高校生の職場体験、大学生、専門学校のインターンシップ・飼育実習などの依頼に対し、柔軟に受入れ対応と調整を行う。

キ ボランティア活動支援

生涯学習の一環として、水族館で活動しているボランティアグループ「マンボラクラブ」と連携を深め、ボランティア自身が展示物と来館者との仲介役となり、来館者への学びの機会を提供できるよう活動支援を行う。

ク SDGsの取り組み

サステナビリティアクション（SDGs17の目標）に基づき課題検討、活動報告等の共有を行うとともに、各課のSDGsに関する方針や活動計画の策定と実施、進捗の共有を行う取組みを推進していく。また、9月にはSDGs週間に合わせ、当館の取組みを紹介するイベントを実施する。

（4）誘客促進事業

県内外からの集客を図るために、サメの飼育種類数日本一としてサメのブランド化の推進するため研究実績を紹介する企画展を実施するとともに、シーズンイベントに合わせた特設水槽の展示、人気キャラクターとコラボしたイベント開催等、一年を通して話題提供と誘客促進に努める。

Webチケットの活用を継続し、入場の円滑化を推し進めていくとともに、販路拡大を視野に入れ、コンビニエンスストアでのチケット販売にも注力する。

また、インバウンド誘致のため県や町と連携した商品造成に加え、現地での旅行者向けの営業活動を実施する。ホテル宿泊プランの利用促進や旅行代理店によるツアー企画、ユニークメニューの実施拡大など、常に新しい商品や話題の提供に努めるほか、大洗町との連携事業を継続していく。

ホームページは今後も閲覧者にとって分かり易い運営を心掛け、ブランディングに合わせたデザインの更新とともに、常に利便性の向上に努めていく。ホームページやSNS以外においても、Webメディアを積極的に活用した情報発信を行うことで、紙からデジタルへの移行を推し進める。また、県内の観光施設とも情報共有を図り、一丸となって茨城県全体を盛り上げていく。

さらに、より効果的な広報やセールスを展開するため、広報素材の更新や専門業者によるマーケティング調査を実施することで精度の高い分析を行う。

ア イベント

4月からGWにかけて、3月にリニューアルオープンする「くらげ365」に関連したイベントを開催、GW後から7月上旬までは、人気キャラクター「おでかけ子ザメ」とコラボし、当館の得意分野である「サメの繁殖」に焦点を当てた企画展示を行い、話題提供とともに誘客促進を図る。また、夏・秋イベントは、昨年度実施し、大変好評であった「すみっこぐらし」とコラボした企画展等をグレードアップした内容で開催し、関連する特徴のある生物の展示や館内回遊施策・PRに努め、さらなる入場者増につなげる。また、夏季のオーシャンライブではこれまでのイルカの水中ライブにアシカの水中ライブを加え、海獣類の魅力がより伝わりやすい演出を行う。クリスマス、新春イベントについては、季節に応じた雰囲気館内や水槽を演出し、常に話題提供に努める。さらに、春イベントとしては20周年事業で行った「超サメ展」後、蓄積してきた研究結果をベースに「サメ」の企画展を実施し、誘客を図るとともにこれまで培ってきた「サメブランド」をより強固なものとする。また、地元のプロバスケットボールチーム、茨城ロボッツとコラボしたイベントは継続して開催し、茨城ロボッツのファンを取り込んだ誘客促進を図る。

その他、年間をとおしたイベントとして、ひたち海浜公園と協力し、「ネモフィラ」「コキア」をテーマとしたコラボ水槽を展示し、話題提供を図る。

夜間営業については、昨年度リニューアルした「NIGHT AQUAWORLD」が開催されていることを定着させるとともに季節に合わせたイベントを加え、魅力を増幅させる。

また、生物へのフォーカス、シーズンネタなど様々なパターンの可変性を持ったプログラムを醸成することで、客層の多様化に努める。

イ プロモーション

令和6年度も、タグライン「さあ、新世海！」を継承し、ホームページやイベントチラシ等において積極的に使用し、新規プログラムの開発など、常に新しいことにチャレンジしていく。

ホームページ閲覧者の8割以上がスマートフォン利用者のため、最適化しながら情報へアクセスし易いサイトづくりを心掛けていく。SNSにおいては、若者をターゲットにした新しい機能の充実を図るとともに、話題性ある生物の魅力を発掘し、メディアミクスに繋がる情報発信を行っていく。

また、プロモーション用の素材については、こまめに更新していくことで、新鮮さを保持し、ホームページや広告、セールス等で活用していく。

メディアへの情報発信については、Webに比重を置いたPRを続けていくことで、紙からデジタルへ移行を進めていく。また、「メディアデー」を開催し、メディア従事関係者を水族館へ招待し、メディアとの信頼関係を築いていく。

ウ マーケティング調査

駐車場の「ナンバー調査」や令和5年度から取り入れた専門業者による「マーケティング調査」を継続する一方、来館者を対象にWebを利用したアンケート調査の体制を確立し、データ取得日及び取得数を増やし、顧客動向と顧客満足度の2つの分析精度を向上させることで、その後の広報活動やセールスで活用し、県外からの誘客へと結び付けていく。

エ オペレーション

Webチケットについては、入場口混雑の緩和、オペレーションの簡略化の観点から導入を継続し、また販売ページ上での選択肢を増やす意味で様々なチケットプランを造成する。販路拡大のためコンビニエンスストアを利用したWeb販売の拡充も視野に入れる。なお、企業連携や近隣宿泊施設等とのセットプランについても、電子チケットのノウハウを活かし、順次非接触・電子化を進めることで、業務の効率化を進める。

年間パスポートについては、確実な更新によるリピーター確保を実現すべく、特典の更新キャンペーンなどを通じてアピールすると共に、イベントと連動した特別デザイン、利用特典の拡充により新規購入を促進する。

また、自動ゲートを十分に活用するためにも、各種割引や預託券等の整理を行い、省力化に努めるとともに、館内マップ等の配布物に関しても電子化を進め、経費の節減・省力化を実現する。

オ セールス

旅行者や宿泊施設との連携強化を図り、新たな商圈内の団体を確保するため、誘致活動を積極的に行っていく。学校団体についてはWebによる来館前の学習会、標本貸与など学習プログラムを充実させ誘致を図る。また、幼稚園・保育園など低年齢の団体

については遊具の貸切などを合わせて販売し、増員を図る。

昨年、定期的なインバウンド団体の送客があった台湾からはさらなる増加が見込める旅行者を増やすため、閑散期に割引キャンペーンを実施し、誘致する。また、台湾を含め、香港・タイ・シンガポールなど送客が見込める国については、現地にて旅行者向けの営業活動を実施し、ニーズの把握・商品造成を行う。

企業契約としては福利厚生での利用を促進し、預託券の販売・企業向けの割引キャンペーン・福利厚生アウトソーシングのキャンペーンへの参加により利用の増加を図る。

(5) 管理運営部門

経営改革を継続しウィズコロナの社会における既存事業の変革による強化のため、コロナ禍で進んだ価値変容や行動変容を促進するとともに、損益分岐点を引き下げ、筋肉質な運営を図る。

ア 業務効率化

DXの導入により、事務局と連携しながら、データ管理の一元化に向けた検討や、事務効率化の更なる簡素化への取り組みを推進し、電子帳簿保存法による適正な運用の取り組みを図る。

イ 職員満足度（E S）面の改善

働き甲斐のある職場環境の改善に努めるほか、業務効率の簡素化等を行いながら、業務のスキルアップを図り、年休の取得や時間外勤務の削減を推進する。

ウ 労務管理への取り組み

ハラスメントの撲滅のため、毎月開催するコンプライアンス委員会での問題意識の取り組みを推進し、正しい労務管理の強化を図る。また、働き方改革の意識を浸透させ、業務改善を意識した日常業務に取り組みながら、法令遵守の徹底を図る。

エ 金銭事故防止などの管理体制強化

現金等の金銭事故防止などのセキュリティの管理体制の強化を図り、オペレーションの見直しと精度のアップ及び個人のスキルアップにより、よりスピードアップした管理体制の構築を図る。また当たり前の事を確実に取り組む職場の風土づくりの徹底による、職場環境の整備を図る。

オ 組織体制の構築

報告・連絡・相談の当たり前の確認事項を怠ることなく、課題を的確に捉え、各課との緊密な連携の強化の精度を高め、One Team で業務遂行する組織体制の構築を作る。また、内部統制の強化を図り、組織としての熟成を目指し、多様性のある持続可能な水族館を造成する。

カ 人材育成

人材育成の強化を図るため、更なる成長として、CSやハラスメント、労務管理、キャリアアップ研修など、財団事務局とも連携しながら、様々な研修の充実に努める。ま

たコストコントロールを意識した、スピードアップできる業務の取り組み方を推進するほか、サステナビリティの戦略を具現化し、事業貢献に繋がる施策ができるよう、ダイバーシティの取り組みも推進していく。

キ 施設設備の計画修繕対応

安全安心を最優先し、ハード面（施設修繕等）の整備に努め、経年劣化による腐食や老朽化の整備はもとより、維持管理、景観美化への維持管理を図るとともに、効率的なバリューアップ投資を行い、新たな付加価値を付けながら、魅力向上に寄与する取り組みを行う。

項目	金額 (千円)
屋上防水改修工事（第2期）	23,601
オーシャンゾーンウッドデッキ更新工事	94,668
熱交換器更新工事	8,382
ブラインチラー更新工事（第1期）	98,052
高圧受変電室空調機更新工事	31,024
イルカショープール空調設備更新工事	43,553
計6件	299,280

3 収益事業1（水族館売店事業）

地域に貢献する観光拠点施設としての役割を踏まえ、マーケットプレイスの物販部門「スーベニアショップ モラモラ」及びシャークダディズルーム内の「コレクターズショップ ガレオス」、「リラックスカフェ マーメイド」の運営を行う。

運営するにあたり海洋環境への取り組みを推進し、SDGs で掲げられている海の豊かさを守る活動の一環として、プラスチック類の削減等社会的役割を果たす。主な取り組みとして、環境に配慮した有料レジ袋の推進やサステナブルバックの販売、ガチャプラスチックカプセルの有効利用やプラスチック製食器類の見直しを行うことにより、自然環境へ配慮した運営を目指す。

(1) 「スーベニアショップ モラモラ」の運営

当館オリジナル商品の開発や館内イベント等に関連した商品の展開を推し進め販売促進に努める。また、昨年に引き続き話題性のあるキャラクターとのコラボ商品や環境に優しい商品などを展開し、集客に結び付く店舗運営を目指す。

なお、新商品導入に際しては、店舗内什器棚の商品の配置を考慮し、リピーター層にも満足してもらえる店舗作りに努め、収入増を図る。

また、次年度のリニューアルに向けてのレイアウト分析や基本設計の作成を行う。

(2) 「コレクターズショップ ガレオス」の運営

有料ゾーンにある店舗ならではの専門性のある商品構成や、店舗名である「サメ」及び、「クラゲ」に特化した商品のアイテム数を増やししながら、当館ならではのオリジナル商品の開発を行うとともに、店舗の雰囲気合わせた大人向けの高品質・高付加価値

商品を揃えることにより商品単価アップを図る。またエアくじ販売を継続し、更に新たな試みとしてメダリーフを導入することにより、更なる収入増を目指す。

(3) 「リラックスカフェ マーメイド」の運営

リニューアル後の既存メニュー構成を基本とし、他にはないオリジナル性の高い商品メニューを取り入れるほか、集客につながる看板等の設置により利用促進を図る。また、オペレーションを見直すことにより商品提供時間などの利便性を高める。

館内イベントに合わせたメニューや季節感のあるメニューを考案し、顧客満足度向上を図りながら、更なる収入増に取り組む。

ナイト営業時での限定メニューは、夜の雰囲気に合わせてメニュー構成を継続展開するが、各商品の販売率を調査しながら随時見直しを図る。また、SDGsの取り組みとしては、脱プラスチックを推進するとともに、イベント等で余った食材を利活用したメニューを考案し環境問題への取り組みをアピールする。

更に、次年度のPOSレジ更新に向け、オペレーションを検討する。

4 法人運営

新型コロナウイルス感染症の影響が薄れ、大洗水族館もポストコロナという視点で運営するフェーズ（段階）を迎えており、業績評価指標による振り返りと打ち返しの徹底に努めた目標値の確実な達成、書類の電子化及びネットワーク構築の整備等DX活用による業務の効率化と生産性向上の推進等で、公益目的事業の充実にに向けた財産基盤及び経営基盤の強化を図る。

なお、事務局について令和6年度は、総務部門と文化振興部門を統合した新たな体制で出発するため、より効率的に運営できる仕組みを整えていく。

また、持続可能な開発目標（SDGs）についても、財団全体で具体的な取り組みを検討・推進し、持続可能な社会の実現に貢献していく。

さらに、事業の継続及び拡大を図るために必要な人材育成のため、各階層に必要な知識習得の研修や知識強化を図るための特別研修などを実施するほか、業務内容の見直しなどによる時間外労働の縮減等働きやすい職場環境の整備を推進していく。

併せて、管理職員をはじめ職員個々の成果や実績を適正に評価できるよう、給与等に反映させる能力・業績評価制度を継続実施するとともに、表彰制度を推進し、組織の活性化と職員の意識高揚を図る。

Ⅱ 収 支 予 算

- 正味財産増減予算書（損益ベース） …………… 14 ～ 15
- 正味財産増減予算書（損益ベース）内訳書 …………… 16 ～ 17
- 資金調達、設備投資及び特定資産残高の見込み書 …………… 18

令和6年度 公益財団法人いばらき文化振興財団正味財産増減予算書

(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

(単位:千円)

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 一般正味財産増減の部			
1 経常増減の部			
(1) 経常収益			
① 基本財産等運用益	312	312	0
② 特定資産運用益	2,563	2,564	△ 1
③ 事業収益	2,937,246	3,045,215	△ 107,969
自主公演入場料収益	9,560	25,294	△ 15,734
手数料収益	0	7,258	△ 7,258
負担金収益	0	27,956	△ 27,956
受託公演委託金収益	51,873	28,111	23,762
県民文化センター指定管理収益	0	193,426	△ 193,426
県民文化センター利用料収益	0	92,000	△ 92,000
自然博物館水系展示水槽 管理委託金収益	18,472	17,049	1,423
水族館入場料収益	1,850,689	1,862,518	△ 11,829
売店収益	1,006,652	771,225	235,427
駐車場利用料収益	0	20,378	△ 20,378
④ 受取補助金等	45,424	72,328	△ 26,904
受取財団運営費補助金	35,724	51,878	△ 16,154
新人演奏会補助金	2,000	2,000	0
受取助成金	7,700	18,450	△ 10,750
⑤ 雑収益	74,565	55,066	19,499
雑収益	74,565	55,066	19,499
経常収益計(A)	3,060,110	3,175,485	△ 115,375
(2) 経常費用			
① 事業費	3,013,949	3,010,638	3,311
文化活動団体等助成金	11,275	22,377	△ 11,102
役員報酬	12,107	12,069	38
給料手当	536,014	589,188	△ 53,174
臨時雇賃金	10,185	9,660	525
福利厚生費	6,580	7,082	△ 502
法定福利費	85,706	93,572	△ 7,866
福利厚生費	0	0	0
報償費	12,948	9,541	3,407
旅費交通費	6,595	7,077	△ 482
接待交際費	60	60	0
消耗品費	73,796	53,077	20,719
燃料費	63,581	79,614	△ 16,033
会議費	1,061	662	399
印刷製本費	11,608	14,077	△ 2,469
光熱水料費	296,104	493,866	△ 197,762
修繕費	31,391	35,530	△ 4,139
飼料費	40,674	35,935	4,739
医薬材料費	2,320	1,693	627
賄材料費	44,368	41,678	2,690
通信運搬費	3,276	5,972	△ 2,696
広告宣伝費	27,444	10,447	16,997
支払手数料	119,975	73,476	46,499
保険料	1,127	2,034	△ 907
委託費	574,036	569,614	4,422
賃借料	34,977	41,181	△ 6,204

(単位:千円)

科 目		当 年 度	前 年 度	増 減
	工事請負費	15,067	20,609	△ 5,542
	原材料費	542,372	385,872	156,500
	生物購入費	11,640	10,581	1,059
	消耗備品費	0	0	0
	支払負担金	5,720	4,293	1,427
	租税公課	93,404	109,032	△ 15,628
	退職給付費用	27,034	26,338	696
	雑 費	20	20	0
	修繕工事負担金	299,280	229,208	70,072
	県納付金	0	0	0
	減価償却費	12,204	15,203	△ 2,999
②	管理費	16,309	16,567	△ 258
	役員報酬	1,538	1,535	3
	給料手当	3,322	4,213	△ 891
	臨時雇賃金	0	0	0
	福利厚生費	229	220	9
	法定福利費	663	813	△ 150
	報償費	0	0	0
	旅費交通費	453	471	△ 18
	接待交際費	20	20	0
	消耗品費	1,178	569	609
	燃料費	60	30	30
	会議費	14	14	0
	印刷製本費	612	589	23
	光熱水料費	300	200	100
	修繕費	50	100	△ 50
	医薬材料費	0	0	0
	通信運搬費	436	436	0
	広告宣伝費	0	316	△ 316
	支払手数料	855	207	648
	保険料	215	236	△ 21
	委託費	1,048	2,129	△ 1,081
	賃借料	2,599	998	1,601
	支払負担金	1,152	1,310	△ 158
	租税公課	73	73	0
	退職給付費用	1,482	2,048	△ 566
	雑費	0	0	0
	減価償却費	10	40	△ 30
	経常費用計(B)	3,030,258	3,027,205	3,053
	当期経常増減額(A)-(B)	29,852	148,280	△ 118,428
2	経常外増減の部			
	(1)経常外収益			
	固定資産売却益	0	0	0
	経常外収益計(C)	0	0	0
	(2)経常外費用			
	① 固定資産除去損			
	固定資産売却・除却損	0	0	0
	経常外費用計(D)	0	0	0
	当期経常外増減額(C)-(D)	0	0	0
	当期一般正味財産増減額	29,852	148,280	△ 118,428
	一般正味財産期首残高	2,168,244	1,774,412	393,832
	一般正味財産期末残高	2,198,096	1,922,692	275,404
II	指定正味財産増減の部			
	① 一般正味財産への振替額	0	0	0
	当期指定正味財産増減額	0	0	0
	指定正味財産期首残高	565,000	565,000	0
	指定正味財産期末残高	565,000	565,000	0
III	正味財産期末残高	2,763,096	2,487,692	275,404

令和6年度 公益財団法人いばらき文化振興財団正味財産増減予算書内訳表
(令和6年4月1日から令和7年3月31日まで)

(単位:千円)

科目 \ 区分	公益目的事業会計			収益事業会計		法人会計	合計
	公1 文化振興事業	公2 水族館事業	小計	収1 水族館売店事業	小計		
I 一般正味財産増減の部							
1 経常増減の部							
(1) 経常収益							
① 基本財産等運用益	312	0	312	0	0	0	312
② 特定資産運用益	2,046	379	2,425	97	97	41	2,563
③ 事業収益	61,433	1,869,161	1,930,594	1,006,652	1,006,652	0	2,937,246
自主公演入場料収益	9,560	0	9,560	0	0	0	9,560
受託公演入場料収益	0	0	0	0	0	0	0
手数料収益	0	0	0	0	0	0	0
負担金収益	0	0	0	0	0	0	0
受託公演委託金収益	51,873	0	51,873	0	0	0	51,873
県民文化センター指定管理収益	0	0	0	0	0	0	0
県民文化センター利用料収益	0	0	0	0	0	0	0
自然博物館水系展示水槽管理委託金収益	0	18,472	18,472	0	0	0	18,472
水族館入場料収益	0	1,850,689	1,850,689	0	0	0	1,850,689
売店収益	0	0	0	1,006,652	1,006,652	0	1,006,652
駐車場利用料収益	0	0	0	0	0	0	0
④ 受取補助金等	13,465	15,692	29,157	0	0	16,267	45,424
受取財団運営費補助金	3,765	15,692	19,457	0	0	16,267	35,724
新人演奏会補助金	2,000	0	2,000	0	0	0	2,000
受取助成金	7,700	0	7,700	0	0	0	7,700
⑤ 雑収益	175	61,634	61,809	12,755	12,755	1	74,565
雑収益	175	61,634	61,809	12,755	12,755	1	74,565
⑥ 指定正味財産からの振替額	0	0	0	0	0	0	0
経常収益計(A)	77,431	1,946,866	2,024,297	1,019,504	1,019,504	16,309	3,060,110
(2) 経常費用							
① 事業費	91,868	1,908,079	1,999,947	1,014,002	1,014,002		3,013,949
文化活動団体等助成金	11,275	0	11,275	0	0		11,275
役員報酬	3,048	7,879	10,927	1,180	1,180		12,107
給与手当	26,780	401,609	428,389	107,625	107,625		536,014
臨時雇賃金	173	4,201	4,374	5,811	5,811		10,185
福利厚生費	334	5,265	5,599	981	981		6,580
法定福利費	4,858	65,139	69,997	15,709	15,709		85,706
報償費	12,888	60	12,948	0	0		12,948
旅費交通費	1,426	4,545	5,971	624	624		6,595
接待交際費	0	60	60	0	0		60
消耗品費	2,356	46,861	49,217	24,579	24,579		73,796
燃料費	195	54,998	55,193	8,388	8,388		63,581
会議費	308	614	922	139	139		1,061
印刷製本費	1,017	8,632	9,649	1,959	1,959		11,608
光熱水料費	0	256,900	256,900	39,204	39,204		296,104
修繕費	0	27,902	27,902	3,489	3,489		31,391
飼料費	0	40,674	40,674	0	0		40,674
医薬材料費	0	2,013	2,013	307	307		2,320
賄材料費	0	0	0	44,368	44,368		44,368
通信運搬費	439	2,200	2,639	637	637		3,276
広告宣伝費	935	26,509	27,444	0	0		27,444
支払手数料	1,966	67,428	69,394	50,581	50,581		119,975
保険料	0	834	834	293	293		1,127
委託費	14,510	475,491	490,001	84,035	84,035		574,036
賃借料	4,709	24,301	29,010	5,967	5,967		34,977
工事請負費	0	15,067	15,067	0	0		15,067
原材料費	0	0	0	542,372	542,372		542,372
生物購入費	0	11,640	11,640	0	0		11,640
支払負担金	0	4,090	4,090	1,630	1,630		5,720
租税公課	2,991	44,765	47,756	45,648	45,648		93,404
退職給付費用	1,483	20,161	21,644	5,390	5,390		27,034
雑費	0	20	20	0	0		20
修繕工事負担金	0	279,514	279,514	19,766	19,766		299,280
果納付金	0	0	0	0	0		0
減価償却費	177	8,707	8,884	3,320	3,320		12,204

(単位:千円)

科目 \ 区分	公益目的事業会計			収益事業会計		法人会計	合計
	公1 文化振興事業	公2 水族館事業	小計	収1 水族館売店事業	小計		
② 管理費						16,309	16,309
役員報酬						1,538	1,538
給料手当						3,322	3,322
臨時雇賃金						0	0
福利厚生費						69	69
法定福利費						663	663
福利厚生費						160	160
報償費						0	0
旅費交通費						453	453
接待交際費						20	20
消耗品費						1,178	1,178
燃料費						60	60
会議費						14	14
印刷製本費						612	612
光熱水料費						300	300
修繕費						50	50
医薬材料費						0	0
通信運搬費						436	436
広告宣伝費						0	0
支払手数料						855	855
保険料						215	215
委託費						1,048	1,048
賃借料						2,599	2,599
支払負担金						1,152	1,152
租税公課						73	73
退職給付費用						1,482	1,482
雑費						0	0
減価償却費						10	10
経常費用計(B)	91,868	1,908,079	1,999,947	1,014,002	1,014,002	16,309	3,030,258
当期経常増減額(A)-(B)	△ 14,437	38,787	24,350	5,502	5,502	0	29,852
2 経常外増減の部							
(1) 経常外収益							
経常外収益計(C)	0	0	0	0	0	0	0
(2) 経常外費用							
① 固定資産除去損	0	0	0	0	0	0	0
固定資産除却損	0	0	0	0	0	0	0
経常外費用計(D)	0	0	0	0	0	0	0
当期経常外増減額(C)-(D)	0	0	0	0	0	0	0
他会計振替額(E)	0	0	0	0	0	0	0
当期一般正味財産増減額	△ 14,437	38,787	24,350	5,502	5,502	0	29,852
一般正味財産期首残高	157,754	1,498,926	1,656,680	443,868	443,868	67,696	2,168,244
一般正味財産期末残高	143,317	1,537,713	1,681,030	449,370	449,370	67,696	2,198,096
II 指定正味財産増減の部	0	0	0	0	0	0	0
① 一般正味財産への振替額	0	0	0	0	0	0	0
当期指定正味財産増減額	0	0	0	0	0	0	0
指定正味財産期首残高	565,000	0	565,000	0	0	0	565,000
指定正味財産期末残高	565,000	0	565,000	0	0	0	565,000
III 正味財産期末残高	708,317	1,537,713	2,246,030	449,370	449,370	67,696	2,763,096

令和6年度資金調達、設備投資及び特定資産残高の見込み書

(自 令和6年4月1日 至 令和7年3月31日)

1.資金調達の見込み

借入予定の有無 なし

2.設備投資の見込み

(単位:千円)

取得	事業番号	設備投資の内容	支出予定額	資金調達方法
	公2	液体窒素凍結保存容器(30ℓ容器)	400	自己資金
公2	シーベル10(10ℓ容器)	140	自己資金	
公2	オーシャンホールモニター一式	231	自己資金	
公2	隔離施設用物置	550	自己資金	
公2	顕微鏡	250	自己資金	
公2	サメ剥製制作	2,200	自己資金	
公2	預託システム(ソフトウェア)	3,000	自己資金	
収1	マーメイド用自動フライヤー	1,000	自己資金	
	計	7,771		

3.特定資産残高の見込み

(単位:千円)

特定資産の区分	積立金の残高及び増減の見込み額			
	前期末残高 (A)	当期増加額 (B)	当期減少額 (C)	当期末残高 (A)+(B)-(C)
(1) 退職給付引当資産	549,219	28,516	21,532	556,203
(2) 助成事業積立資産	535,000	0	0	535,000
(3) 文化振興事業積立資産	58,343	2	0	58,345
(4) 施設設備修繕等積立資産	216,309	4	0	216,313
(5) 事業資金積立資産	213,431	4	0	213,435
(6) 緊急時対応積立資産	297,828	8	0	297,836
(7) 特定費用準備資金	720,000	50,607	223,928	546,679
第二期文化活動助成事業資金	(20,000)	(0)	(11,275)	(8,725)
水族館大規模修繕等準備資金	(700,000)	(50,607)	(212,653)	(537,954)
合計	2,590,130	79,141	245,460	2,423,811

